

# 富山短期大学における 私立大学等改革総合支援事業を中心とする私学助成を基盤とした取組と成果

## 学校法人富山国際学園

富山国際大学  
富山短期大学  
富山国際大学附属高等学校  
富山短期大学附属みどり野幼稚園

## 学校法人富山国際学園・富山短期大学の 沿革

**昭和38年** 学校法人富山女子短期大学設立  
富山女子短期大学教養科開校  
昭和39年 富山女子短期大学附属高等学校開校  
昭和42年 食物栄養科、保育科の増設  
昭和46年 食物栄養科を食物栄養学科に、  
保育科を幼児教育学科に名称変更  
昭和52年 富山女子短期大学附属みどり野  
幼稚園開園  
昭和57年 商経学科の増設  
平成 2年 学校法人富山国際学園に名称変更  
富山国際大学開学  
平成 4年 富山国際大学附属高等学校  
に名称変更  
平成 8年 福祉学科の増設  
平成11年 商経学科を経営情報学科に名称変更  
平成12年 富山短期大学に名称変更  
富山短期大学附属みどり野幼稚園  
に名称変更  
平成17年 専攻科食物栄養専攻の開設

## 富山短期大学の概況

大 学 名	富山短期大学 (Toyama College)
設 置 者	学校法人 富山国際学園
開 設	昭和38(1963)年4月1日
所 在 地	富山県富山市願海寺水口444番地 (TEL) 076-436-5146
学 科	食物栄養学科、幼児教育学科、経営情報学科、福祉学科、 専攻科食物栄養専攻
学 位	短期大学士(食物栄養学、保育学、経営情報学、 介護福祉学)、学士(栄養学)
建学の精神	人間愛を基調にした高い知性、広い教養、そして健全にして 豊かな個性と、社会性に富む調和のとれた全人的な人間形成
教育の目的	高い知性と広い教養と健全にして豊かな個性をもった地域社会 の発展に貢献する人材の育成
スローガン	ここで出会い ここで学び ここから未来へ

## 学生の在籍状況 (平成29年5月1日現在)

	収容 定員(人)	在籍学生数(人)		
		1年	2年	合計
食 物 栄 養 学 科	160	87	82	169
幼 児 教 育 学 科	160	83	87	170
経 営 情 報 学 科	220	122	110	232
福 祉 学 科	120	38	39	77
小 計	660	330	318	648
専 攻 科 食 物 栄 養 専 攻	30	14	15	29
合 計	690	344	333	677

## 私立大学等改革総合支援事業採択状況

平成25年度	タイプ1 大学教育質転換型
平成26年度	タイプ1 教育の質的転換
平成27年度	タイプ1 教育の質的転換
平成28年度	タイプ1 教育の質的転換

## 私立大学等教育研究活性化設備整備事業 採択状況

(年度)	(テーマ)
平成24年度	教員の協働による、「主体的な学び」を 促すWebシラバスの構築
平成25年度	学生の主体的な学び・協働学習・自学 自習を促すラーニング・コモンズの整備
平成26年度	「協働・出会い・自立・共創」を促す アクティブ・ラーニング環境の整備
平成27年度	(同上)
平成28年度	(同上)

## 大学教育再生加速プログラム(AP)選定

(年度)	(テーマ)
平成26年度	【テーマⅡ:学修成果の可視化】 「学修成果評価システム」構築による、 PDCAサイクルのシステム化



学校法人 富山国際学園  
富山短期大学

# 教育の質的転換 取組

## 1. 「アクションプラン(2015~2018)」の策定による全学的・総合的なPDCAサイクルの構築・定着と不断の改善

- 【I. 教育】** 学生の健全で豊かな「人間性」と「専門的知識・技能」・「思考力・判断力・表現力」・「主体的に学ぶ力」・「協働力」を養い、生きる力を育む教育の推進
- 1 教育の「質向上」と「質保証」の徹底
  - 2 学生の「主体的学び」を促進する教育の推進
  - 3 地域志向の教育研究活動の増進
  - 4 学生の成長を支えるために教職協働の強化・拡充
- 【II. 学生支援】** 手厚い進路支援と充実した学生生活のための支援
- 1 体系的・組織的・効果的なキャリア教育・進路支援
  - 2 学生生活を支援するための、施設設備整備とサポート体制の充実
- 【III. 地域貢献】** 地域を担う人材の育成と地域振興への貢献
- 1 地域社会の発展に貢献できる人材の育成
  - 2 地域連携・産官学連携の拡充・強化と、地域課題の解決・地域活性化の推進
- 【IV. 入学者確保】** ブランド・マネジメントの推進と入学者の安定的確保
- 1 情報発信・広報活動の強化
  - 2 アドミッションポリシーに沿った、幅広く、意欲のある学生の受入促進
- 【V. マネジメント体制】** マネジメント体制の強化による健全な大学運営
- 1 教学マネジメント体制の強化による全学的な教育力の絶えざる向上
  - 2 マネジメント体制の強化による、適切な財政運営と経営資源の有効活用

## 2. 「三つの方針」の整合的・体系的な見直しと「学修成果」

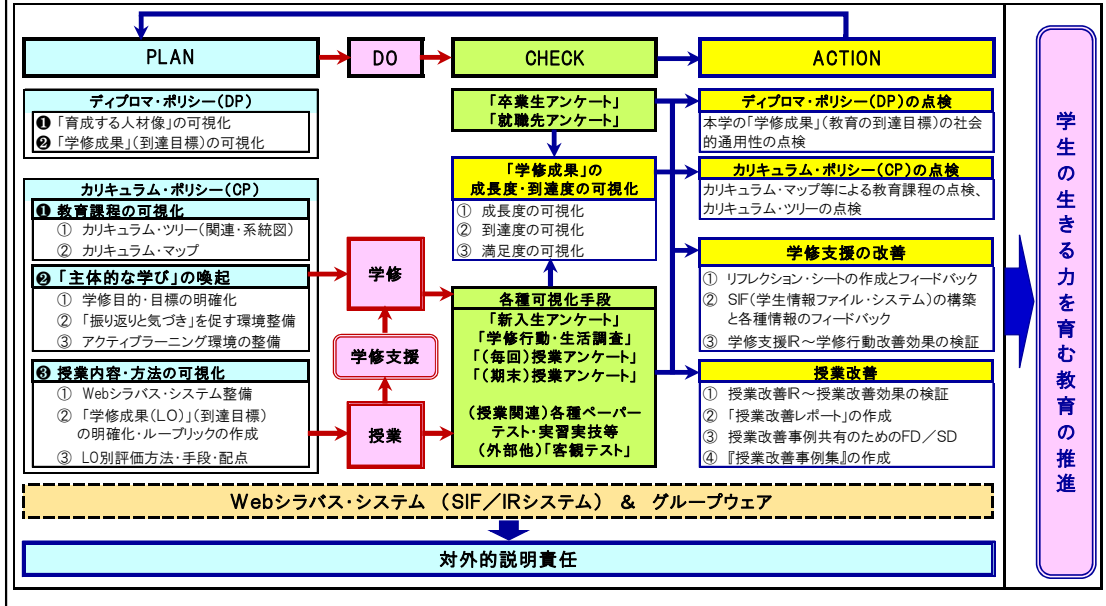
### 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

富山短期大学は建学の精神・教育理念に基づいて、「高い知性と広い教養と健全にして豊かな個性をもった地域社会の発展に貢献する人材」の育成、すなわち全人的な人間育成をめざし、次の「五つの力」を身につけることを全学的な教育目標としています。

(DP)育成する人材像 身に付けるべき「5つの力」	「学修成果」の 「5つの基準」	身に付けるべき 「17の具体的な資質・能力」
1 実践の土台となる「専門的知識・技能」	(L01) (知識・理解)	① 幅広い教養・一般常識 ② 専門分野の基礎的な知識
	(L02) (技能)	③ 専門分野での実践に必要な技術・技能 ④ PCや情報機器を操作する力 ⑤ 分かりやすく伝える力・プレゼンテーション力 ⑥ 分かりやすく文章にまとめる力
2 実践を支える「思考力・判断力・表現力」	(L03) (思考力・判断力・表現力)	⑦ 問題点・課題を発見して、論理的に問題・課題を解決できる力
	(L04) (関心・意欲・態度)	⑧ 自分の適性や能力を把握する力 ⑨ 自学自習する力・習慣 ⑩ 自分で目標を設定し、計画的に行動する力 ⑪ ねばり強さ・持続力・集中力 ⑫ チャレンジ精神 ⑬ 自己効力感や自信・自己肯定感
3 生涯学び続け成長するための「主体的に学ぶ力」	(L05) (人間性・社会性)	⑭ 多様な価値観・考えを持つ人々の理解と尊重 ⑮ 社会的責任の自覚と高い倫理観 ⑯ 地域や社会に貢献する意識 ⑰ 協働して共通の目標の実現に貢献する力
	4 他者を尊重し多様な人々と共に共通の目標の実現に貢献できる「協働力」	
5 健全で豊かな「人間性」		

## 3. 「学修成果の可視化」で目指すもの～教育の「質向上」と「質保証」

「学修成果」に関する可視化データ(エビデンス)に基づいてPDCAサイクルを絶えず回し、授業改善・学修改善・教育課程の改善等を継続的に実現して、「学生の生きる力を育む教育」を推進するとともに、「学修成果」に関する対外的説明責任を果たす。



## 4. 学修環境の整備～「協働・出会い・自立・共創」を促すアクティブ・ラーニング環境の整備

「学修成果」の向上には「主体的、対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)が欠かせない。そのためには、グループワークや協働学修等において知識・理解や思考、技術等を表現し合い、自分を客観化・相対化する作業を通じて、「振り返りと気づき」を促すことが効果的である。

平成24年度以降、「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」の補助金を得て、液晶モニターやプロジェクター、スクリーン等の様々な視聴覚設備を備えたスタジオや教室等アクティブ・ラーニング環境の整備に努めている。



ラーニング・コモンズ

グループワーク専用ルーム

プレゼンテーション・スタジオ

# 教育の質的転換 変化と成果

改革総合支援事業を基盤とする取組により、学生の学修環境を大幅に改善するとともに、「学修成果の可視化」を推進することによって、授業改善、学修行動の改善、教育課程の改善のためのPDCAサイクル、すなわち教育の「質向上」と「質保証」のための体制が整備され、学生の「学修成果」に顕著な向上が見られる。

## 1. 「授業改善」の進展

### (1)「授業改善」のためのPDCAサイクルの定着

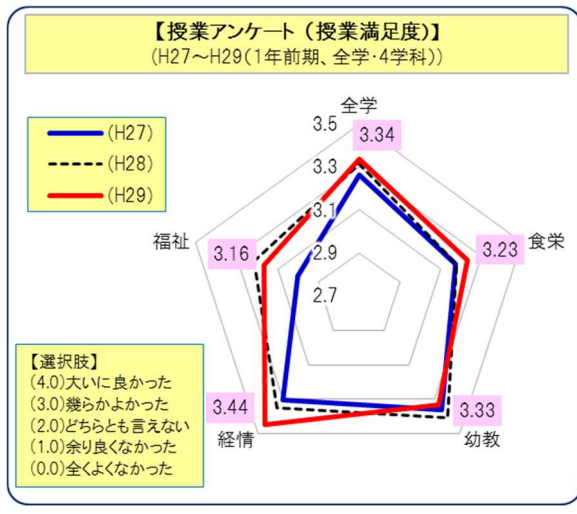
- ① 「(期末)授業アンケート」
- ⇒ ② 「(期末)授業アンケート」の集計・分析
- ⇒ ③ 【教員】「授業改善レポート」の作成
- ⇒ ④ 【FD】授業改善事例の報告・共有
- ⇒ ⑤ (年度末)『授業改善事例集』の作成
- ⇒ ⑥ (次年度)改善授業の実践

### (2)主な指標に見る、「授業改善」の進展(実績値)

	(平成)	26年度	28年度
① ループブックにより、成績評価基準の可視化を行っている科目の割合(専任)	%	未測定	100.0
② アクティブラーニング授業科目の割合(専任)	%	44.0	58.5
③ 授業外学修時間を調査している科目の割合	%	44.2	100.0
④ 「(期末)授業アンケート」実施科目の割合	%	41.0	100.0
⑤ 「授業改善レポート」作成教員の割合(専任)	%	0.0	95.0
⑥ 「授業改善レポート」作成科目の割合	%	0.0	63.0

### (3)「授業アンケート」にみる「授業改善」の成果

～「授業満足度」は、概ね着実に向上



## 2. 「学修行動」の改善

### (1)「(毎回)授業アンケート」(リフレクション・シート)の作成による「振り返りと気づき」の喚起

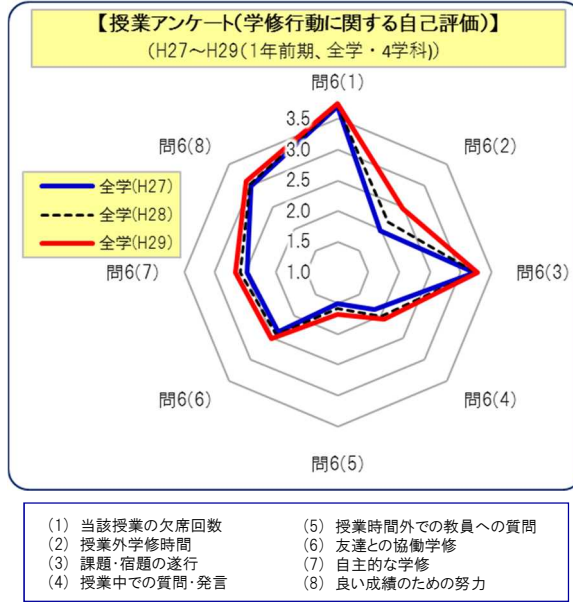
- 【「リフレクション・シート」の内容】**
- ・ 理解度・興味関心度・参加度の自己評価
  - ・ 授業内容に関する「問い」の生成
  - ・ 授業外学修時間ほか
- ⇒【「リフレクション・シート」に対するフィード・バック】

### (2)「SIF(学生情報ファイル・システム)」での情報フィードバックによる「振り返りと気づき」の喚起

- 【フィードバック情報】**
- ① 科目別・学修成果別成績・到達度自己評価の対比～自己及び学科平均
  - ② 各種学生アンケートの集計結果

### (3)「授業アンケート」にみる「学修行動」の変容

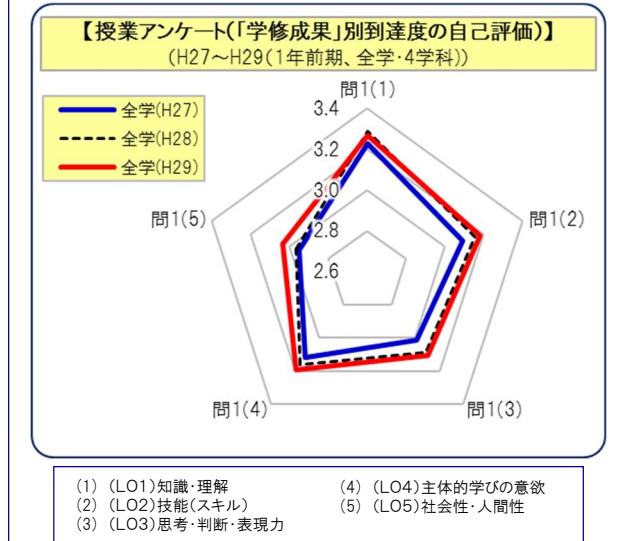
～「授業外学修時間」と「主体的学び」が着実に改善



## 3. 「学修成果」の向上

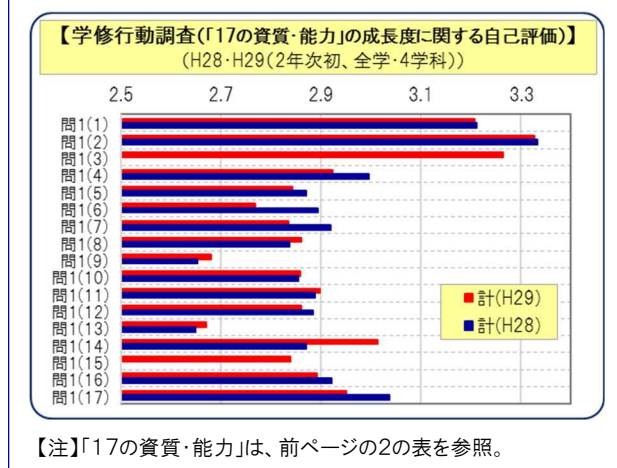
### (1)「授業アンケート」にみる「学修成果」の向上

～「学修成果」到達度の自己評価は着実に向上



### (2)「学修行動・生活調査」にみる「学修成果」の成長

～1年間の成長実感は概ね高い

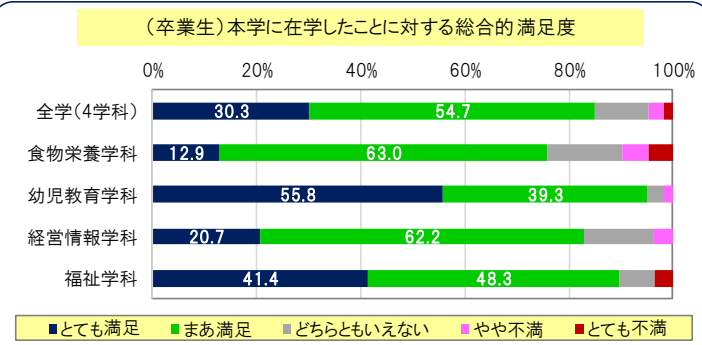


# 第三者評価と今後の課題

「地域社会の発展に貢献する人材の育成」を目的とする本学が、改革総合支援事業を基盤とする取組により、教育の「質向上」と「質保証」のための体制を整備していくに当たって、ステークホルダーを初め第三者の評価・期待・ニーズ等を、各種改善のためのPDCAサイクルに反映している。

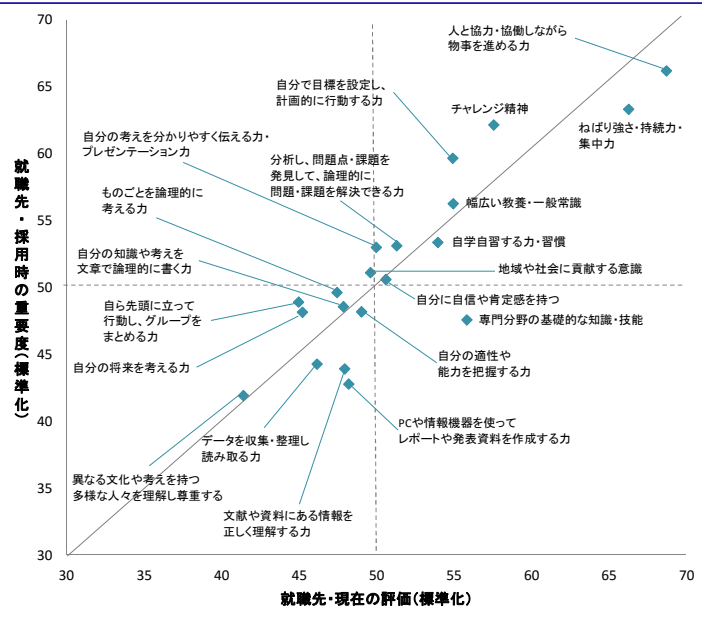
## 1. 卒業生の満足度

卒業生は概ね、本学に在学したことに満足している。



## 2. 就職先が採用時に重視する力と卒業生に対する評価

就職先が採用時に重視する資質・能力については、概ね、卒業生は高い評価を現在得ている。

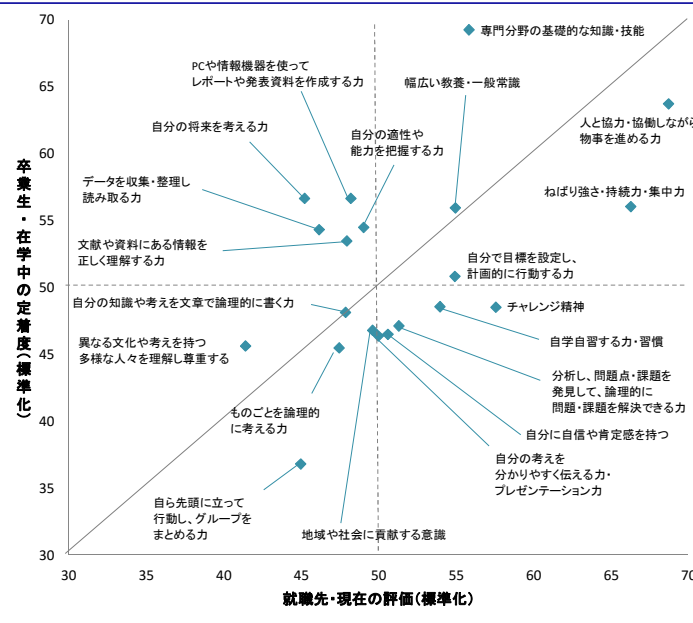


## 4. 「富山短期大学 外部評価委員会」～AP関連議題

- 【第1回】平成27年3月16日(月)
  - ① 「大学教育再生加速プログラム(AP)」事業について
  - ② 「第三者アンケート」調査項目について
- 【第2回】平成27年9月18日(金)
  - ① (平成27年度前期)アンケート結果の概要と今後の課題・対応
  - ② 「就職先アンケート」・「卒業生アンケート」の実施要領・調査票
- 【第3回】平成28年3月9日(水)
  - ① 「(富山短期大学)第三者アンケート」結果及びその活用について
- 【第4回】平成28年8月25日(木)
  - ① 「AP事業1年延長計画」について
  - ② 「富山短期大学2015年度入学者の追跡調査」について
- 【第5回】平成29年3月13日(月)
  - ① 「AP事業活動の概要」について
  - ② 「「学修成果」の分析」について
- 【第6回】平成29年9月22日(金)
  - ① 「「授業改善」効果の検証」について

## 3. 卒業生が在学中に身に付けた力に関する就職先の評価

卒業生が在学中に身に付けたと自己評価する資質・能力については、概ね、就職先から高い評価を得ているが、乖離も見られる。



## 5. 今後の課題

各種改善のためのPDCAサイクルを実質化し、ステークホルダーをはじめ第三者・地域社会に評価される、教育の「質向上」・「質保証」を実現するための課題。

- ① 「学修成果」の評価・アセスメント方法、及び「ルーブリック」の改善・精緻化
- ② 「学修成果」を客観的に可視化するための、「アセスメント・テスト」の開発・導入
- ③ 学生の「学習意欲」・「主体的学び」を喚起するための「学修支援IR」の推進
- ④ 効果的な授業の実現を支援するための「授業改善IR」の推進

### 「就職先・卒業生アンケート」の概要

実施年月 : 平成27年11月  
 送付卒業生 : 過去3年間の卒業生 1,070人  
 回答数(回答率) : 247人(23.1%)  
 送付就職先 : 過去7年間の卒業生の就職先852先  
 回答数(回答率) : 420先(49.3%)